

群 教 ゼ	G 05 - 07
	平 16.221集

# 「暮らしの中の作品」を鑑賞する 楽しさを味わう図画工作科指導の工夫

- よさや美しさを調べ、追究する活動を取り入れて -

特別研修員 新島 英幸 (太田市立中央小学校)

## 研究の概要

図画工作科の鑑賞において、身近にある造形作品に目を向け、そのよさや美しさを調べ、追究する活動を取り入れることにより、「暮らしの中の作品」を鑑賞する楽しさを味わえることを実践を通して明らかにする。今まで見過ごしていた作品にも関心を持ち、調べ、追究することにより、普段何気なく使っているものでも、作者が思いをこめてつくったものであるということに気づき、見方や感じ方を深め、鑑賞の楽しさを味わっていく。

【キーワード：図画工作 鑑賞 暮らしの中の作品 よさや美しさ 調べ 追究】

## 主題設定の理由

テレビを見ていると、電化製品や車、携帯電話など様々な新製品の情報が入ってくる。デパートに買物に行っても、街を歩いているだけでも様々な「暮らしの中の作品」(身近にある造形作品)に囲まれ、洋服や文房具などを選ぶのも自分なりの価値観で選んだりする場面が多い。しかし、自分なりのよさを見いだせず、友達が着ているからとか、使っているからという安易な理由で選んでしまう様子も見られる。自分なりのよさや美しさで判断し、身近にあるものにも価値を見いだせることは、鑑賞の楽しさを味わう上で大変重要である。

子どもの実態調査におけるアンケートでは、「芸術作品(人が描いたり、つくったり、デザインしたもの)にはどんなものがありますか。」の問いに対して、建築物や文房具など「暮らしの中の作品」に着目して答えた子どもは5人であった。このことから分かる通り、「暮らしの中の作品」を、ほとんどの子どもが、鑑賞する作品として考えていない。これは、身の回りのものに作品としての価値を見いだせず、表面的なものしか見ていないからである。そこで、作品としての価値を見だし鑑賞の楽しさを味わうためには、関心をもって見て、自分なりの見方や感じ方を深めることが大切である。

これまでの鑑賞指導を振り返ってみると、子どもたちの作品や教科書にでている作品を扱って、作品のよさや美しさ、表現意図などを一人一人の見方でとらえられるように指導を行ってきたが、「暮らしの中の作品」については作品としての価値を見いだせずにいる子どもが多い。そこで、「暮らしの中の作品」を扱うことで、今まで見過ごしていた作品を鑑賞する楽しさを味わわせたい。具体的には、作品のもつよさや美しさ、作者の表現意図や作品の特徴などを調べ、追究することにより、作品の多様な面白さとともに、普段何気なく使っているものでも、作者が思いをこめてつくったものであるということに気づき、関心を持ち、見方や感じ方を深められると考える。

これらのことから、身近にある造形作品のよさや美しさを調べ、追究する活動を行うことは、「暮らしの中の作品」に関心を持ち、鑑賞する楽しさを味わえるのではないかと考え、本主題を設定した。

## 研究のねらい

図画工作科の鑑賞において、身近にある造形作品に目を向け、そのよさや美しさを調べ、追究する活動を取り入れることにより、「暮らしの中の作品」を鑑賞する楽しさを味わえることを実践を通して明らかにする。

## 研究の見通し

各過程に次のような活動を取り入れれば、「暮らしの中の作品」を鑑賞する楽しさを味わうことができるであろう。

- 1 調べる過程において、身近にある造形作品に目を向け、そのよさや美しさを調べる活動を取り入れれば、今まで見過ごしていた、作品の多様な面白さに気づき、「暮らしの中の作品」に関心をもつことができるであろう。
- 2 追究する過程において身近にある造形作品に目を向け、そのよさや美しさを追究する活動を取り入れれば、普段何気なく使っているものでも、作者が思いをこめてつくったものであるということに気づき、見方や感じ方を深められるであろう。

## 研究の内容と方法

### 1 研究の内容

(1) 「暮らしの中の作品」を鑑賞する楽しさを味わうとは

「暮らしの中の作品」とは、洋服であったり、普段子どもたちが使っている文房具や、かばん、カップ、通学途中みかける看板、公園にあるオブジェ、建築物など身近にある造形作品などである。

鑑賞する楽しさを味わうとは、「暮らしの中の作品」の今まで気づかなかったよさや美しさに関心をもつとともに、作者の表現意図や特徴をとらえ、普段何気なく使っているものでも作者が思いをこめてつくったものであるということに気づき、見方や感じ方を深めることにより作品の価値を知り鑑賞の楽しさを味わうことである。

(2) よさや美しさを調べ、追究する活動とは

よさや美しさとは作者が色・形・材料などを構成することによって創造した独自の表現である。

調べ、追究する活動とは

調べる過程において

身近にあるものを観察したり、触ってみたり、使ってみたりする活動を通して、今まで見過ごしてしまっていた作品の多様な面白さに気づき、関心をもって見る活動である。

追究する過程において

よさや美しさを色、形、素材、機能性などの視点から、友達と意見交換をしたり、インターネットや書籍で調べたり、製造した会社に聞いたり、オブジェを制作した作者に聞いたりして、普段何気なく使っているものでも、作者が思いをこめてつくったものであるということに気づき、見方や感じ方を深める活動である。

## 2 研究の方法

研究の見通しに基づき、次のような方法で授業実践を行い、検証する。

### (1) 授業実践

対象	太田市立中央小学校 6年2組	期 間
題材名	「ぞうけいずかん」 心をつなぐモノやカタチ	平成16年10月21日～11月11日（5時間）
抽出児童	<p>A 図工が好きで、普段から意欲的に作品製作に取り組んでいる。本題材の「暮らしの中の作品」については、今までは、身近にある日用品として何気なくとらえていただけであったので、よさや美しさを調べ、追究することによって、作者の思いを発見しながら、より見方や感じ方を深められるようにしたい。</p> <p>B 意欲をもって作品製作に取り組み、想像力豊かな作品をつくることができる。本題材の「暮らしの中の作品」については、今までは、あまり意識して見ていなかったため、身近にあるものでも、作者が思いをこめてつくった作品であるということに気づかせ、より見方や感じ方を深められるようにしたい。</p>	

### (2) 検証計画

見通し	検証場面	検証の観点	検証方法
1	（調べる過程） ・身近にあるものを観察したり、触ってみたり、使ってみたりする活動を通して、今まで見過ごしてしまっていた作品の多様な面白さに気づき関心をもつ場面	・子どもたちが見つけたよさや美しさを感じるクリップや亀の子たわしなどを観察したり、触ったり、使ったりしたことは、今まで意識していなかった持ちやすい形や使い勝手のよい材料でつくられていることに気づき、その作品に関心をもつために有効であったか。	・観察（つぶやき、表情、発言・発表） ・ワークシート、感想からの分析 ・撮影したビデオによる分析
2	（追究する過程） ・グループで話し合い、追究しながら作者の表現意図や作品の特徴について探っていく場面	・「クリップや亀の子たわしは、なぜこの形をしているの」という疑問をもち、その機能性などから作者の表現意図や作品の特徴など追究し、普段何気なく使っているものでも、作者が思いをこめてつくったものであるということに気づくことは、見方や感じ方を深めるために有効であったか。	・観察（つぶやき、表情、発言・発表） ・ワークシート、感想からの分析 ・撮影したビデオによる分析

## 研究の展開

### 1 題名及び題材の内容

題材名	「ぞうけいずかん」心をつなぐモノやカタチ
題材の内容	「暮らしの中の作品」（身近にある造形作品）に目を向け、そのよさや美しさを調べることにより、今まで見過ごしてしまっていた作品の多様な面白さに気づき、関心をもつ。作者の表現意図や作品の特徴を追究することにより、普段何気なく使っているものでも、作者が思いをこめてつくったものであるということに気づき、見方や感じ方を深め、鑑賞の楽しさを味わう。

### 2 題材の目標及び評価規準

目標	「暮らしの中の作品」のよさや美しさを調べ、多様な作品の面白さに気づき、作者の表現意図や特徴などを追究し、見方や感じ方を深める。	
評価規準	おおむね満足できる状況	十分満足できる状況
	関心・意欲・態度	
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「暮らしの中の作品」のよさや美しさに関心をもって見ようとする。</li> <li>・作者の表現意図や特徴を追究しようとする。</li> <li>・進んで意見交換をし、協力して発表しようとする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「暮らしの中の作品」のよさや美しさに関心をもち、仮説を立てながら見ようとする。</li> <li>・作者の表現意図や特徴を詳しく追究しようとする。</li> <li>・進んで意見交換をし、中心となって発表しようとする。</li> </ul>
	おおむね満足できる状況	十分満足できる状況
鑑賞の能力		
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「暮らしの中の作品」の様々な表現方法を見て、そのよさや美しさを見つめることができる。</li> <li>・作品のもつ多様な面白さ、作者の表現意図や特徴などをいくつかの方法で追究し、見方や感じ方を深めることができる。</li> <li>・進んで意見交換をし、協力して発表することができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「暮らしの中の作品」の様々な表現方法を見て、そのよさや美しさを造形要素と関連づけながら見つめることができる。</li> <li>・作品のもつ多様な面白さ、作者の表現意図や特徴などを様々な方法で追究し、見方や感じ方を深めることができる。</li> <li>・進んで意見交換をし、友達の意見を聞いて自分の考えを深め、中心となって発表することができる。</li> </ul>

3 指導と評価の計画

( )は評価方法

過程	見通し	時間	ねらい ・主な学習活動	支援及び指導上の 留意点	評価規準及び評価方法	
					関心・意欲・態度	鑑賞の能力
		1	本時のめあてをつかむ。	・文房具や服を購入する時にどんな点を基準にして選んでいるか、	「暮らしの中の作品」のよさや美しさに興味・関心をもつ。	「暮らしの中の作品」のよさや美しさを思い起こせる。
調べる	1	1	デザインされた身近な造形作品のよさや美しさに気づく。 ・調べたいデザインされた身近な造形作品を観察しながら、「面白い、かわいい、かっこいい」など、感じたことを出し合う。 ・なぜ、面白いのか、かわいいのかなど話し合いながら分析する。 ・話合いで分かったことの中から、追究するためのキーワード（色、形、使いやすさなど）を見つける。	・子どもたちのつづやきや感動を的確に取り上げ、意欲づけを図る。  ・今まで見過ごしてしまっていた、デザインされた身近な造形作品のよさや美しさが、色、形、材質、機能性などの造形要素と関連していることに気づけるような言葉がけをする。（なぜ、面白いと感じたの、なぜ、かわいいと思ったのなど）  ・ワークシートを使い学習の流れが分かるようにする。	「暮らしの中の作品」のよさや美しさに関心をもって見ようとする。  <b>十分満足できる状況のキーワード</b> ・仮説を立てながら Aへの支援 ・つづやきや発言を生かし、班の中心となって意欲的に活動させたい。 Bへの支援 ・見つけたよさや美しさを認めて、探求心を刺激しながら、意欲的に活動させたい。  <b>努力を要する児童への手だて</b> ・個別に声をかけ、具体的な言葉がけを行いながら意欲づけを図る。 ・意図的に意見を取り上げ、グループの中での自分の役割を明確にし、意欲づけを図る。 (つづやき、表情、発言、発表、ワークシート、感想)	「暮らしの中の作品」の様々な表現方法を見て、そのよさや美しさを見つけることができる。  <b>十分満足できる状況のキーワード</b> ・造形要素と関連づけながら Aへの支援 ・班で追究するための方向性をさだめるような発言を導きだしたい。 Bへの支援 ・素直な発想を生かし、色、形、材質、機能性などとの関連に気づかせたい。  <b>努力を要する児童への手だて</b> ・個別に声をかけ、会話をしながら、色を見てどう思ったか、形を見てどう思ったか、など具体的な言葉がけを行う。 (つづやき、表情、発言、発表、ワークシート、感想)
追究する	2	1	作者の表現意図や作品の特徴を知り、見方や感じ方を深めていく。 ・見つけたキーワードをもとに、グループで意見交換をし、解決できない場合はどうしたらいいか、解決方法を考える。 ・自分たちのグループで考えた解決方法にそって、インターネット、書籍、取材などによって作品のよさや美しさ、作者の表現意図を探っていく。	・作者の表現意図や作品の特徴を探るための子どもたちが考えた方法を予想し、追究しやすい環境を整えておく。 ・分かったこと 新たな疑問 分かったことを繰り返し、自分なりの見解がもてるように支援する。 <b>&lt;予想される方法&gt;</b> ・図書室で調べる。 ・インターネットで調べる。 ・製造した会社に聞く。 ・作者に聞く。 ・取材にいく。など ・製造した会社に聞く時には、教師は電話番号、ホームページのアドレスなどあらかじめ用意しておく。 ・オブジェを制作した作者に聞く時には、事前に連絡をとっておく。	作者の表現意図や特徴を追究しようとする。 進んで意見交換し、協力して発表しようとする。  <b>十分満足できる状況のキーワード</b> ・詳しく  Aへの支援 ・新たな発見をする楽しさを味わわせながら活動させたい。  Bへの支援 ・新たな発見、驚きなどから、鑑賞の楽しさを味わわせながら活動させたい。  <b>努力を要する児童への手だて</b> ・個別に声をかけ、具体的な方法や資料を提示して、意欲づけを図る。 (つづやき、表情、発言、発表、ワークシート、感想)	作品のもつ多様な面白さ、作者の表現意図や特徴などをいくつかの方法で追究し、見方や感じ方を深めることができる。  <b>十分満足できる状況のキーワード</b> ・様々な方法で ・友達の意見を聞いて、自分の考えを深める。 Aへの支援 ・調べて分かったことをまとめながら作者の表現意図や作品の特徴をいろいろ方法で追究し、作者の思いを感じ取らせたい。 Bへの支援 ・調べて分かったことをまとめ、新たな発見、驚きなどから鑑賞する視点を見つけながら、作者の思いを感じ取らせたい。  <b>努力を要する児童への手だて</b> ・個別に声をかけ、会話をしながら、調べたことを具体的な言葉にしていき、ワークシートに書くよう支援する。 (つづやき、表情、発言、発表、ワークシート、感想)
			新たな発見や驚き		自分たちのグループの発表や	自分たちのグループの発表や

	2	を共有し、見方・感じ方を広げる。	友達の発表を聞き、新たな発見、驚きを共有しようとする。	友達の発表を聞き、新たな発見、驚きを共有し、見方、感じ方を広げることができる。
--	---	------------------	-----------------------------	---

## 研究の結果と考察

1 調べる過程において、子どもたちが見つけたよさや美しさを感じるクリップや亀の子たわしなどを観察したり、触ったり、使ったりしたことは、今まで意識していなかった持ちやすい形や使い勝手のよい材料でつくられていることに気づき、その作品に関心をもつために有効であったか

初めに、「自分たちの身近にあるもののよさや美しさを見つけてみよう。」と投げかけた。子どもたちは、今まで身近にあるものを、よさや美しさという視点から見ていなかったのとまどっている様子だったが、文房具を例にアドバイスをしたところ、子どもたちの中からは、「あ、そうか、それだったらこんなものもあるよ。」などと資料1にあるように、多くのものがでてきた。その中から、何に関心をもったかによって、4～6人くらい的人数でグループになった。「クリップ」、「亀の子たわし」、「時計」、「グローブ」、「消しゴム」、「十二単」、「民族衣装」、「さざえ堂」を調べる班に分かれ、各グループごとに観察を始めた。観察をしながら、気づいたことを出し合っていた。子どもたちからは、「色がきれい。」、「形が面白い。」、「なぜ、こんな形をしているの。」、「使いやすい。」などの意見がでてきた。その意見の中から特徴となるキーワードを見つけた。キーワードとしては（色、形、使いやすさ、きれい、便利、面白い、材料）などがでていた。今度は、特徴となるキーワードから、「なぜ、この形なの。」という疑問をもち、「他にも違う形があるかな。」、「形の面白さについて調べてみよう。」などと考えていき、追究するためのテーマを絞り決定した。テーマ決定にあたっては、造形的な要素である、色、形、素材、機能性などとの関連に気づけるように、会話をしながら補足し、決めていった。

Aは、ランドセル、ふでばこ、消しゴム、クリップなど 普段から愛着のあるものを取り上げた。その中からクリップの形の面白さに興味をもち調べることにした。家にあるものをもってきたり、友達から借りたり、職員室で先生から借りてきたりして、たくさんのクリップを集めた。「こんなにもいろいろな種類があるんだ。」と、今まで何気なく使っていたクリップから新しい発見があったことに驚いていた。

Bは、シャープペン、オブジェ、たわしの三つを取り上げた。初めは掃除の時に何気なく使っているというだけで、あまり関心を示していなかったが、実物をもってきて観察をするに従って、手で握ってみたり、机にこすりつけたり、毛の部分などをなでてみたり、いろいろな角度から観察し、感じたことを素直な感想として出していた（資料2）。

子どもたちは日ごろ「暮らしの中の作品」に触れているが、表面的なものしか見ていなかったり、何気なく使っていたりしているだけであった。作品のよさや美しさを見つけようと少し見方を変えただけで、今まで見過ごしてしまっていた作品の多様な面白さに気づくことができ、「暮らしの中の作品」に関心をもつために有効であった。

資料1 子どもたちが見つけたよさや美しさを感じたもの

ランドセル	テレビ	バッグ	民族衣装
かど消し	スポンジ	はさみ	
でる消し	時計	レインボーブリッジ	
未来館	シャープ	十二単	
かんばん	のり	おきもの	
携帯電話	さざえ堂	亀の子たわし	
自販機	花瓶	エンピツ	
トイレ	テーブル	自転車	
東京タワー	筆箱	ピアノ	
クリップ	めがね	バイオリン	
オブジェ	服	グローブ	

資料2 Bの感想

たわしおしつも見ているけど、こんなに見たのは初めてでした。たわしの形のおもしろさがわかりました。

2 追究する過程において、「クリップや亀の子たわしは、なぜこの形をしているの？」という疑問をもち、その機能性などから作者の表現意図や作品の特徴を追究し、普段何気なく使っているものでも、作者が思いをこめてつくったものであるということに気づくことは、見方や感じ方を深めるために有効であったか

前時に決めたテーマをもとに、「なぜ？」を見つけていった。書籍、インターネットによる資料集め、分類、スケッチ、写真に撮る、分解してみる、など各班で追究する方法を工夫しながら、作品に対する自分なりの答えを見つけていった。

Aは用意したクリップを観察して分類していった(資料3)。「金属でできているよ。」「プラスチックでできているよ。」「バネがあるよ。」「面白い形をしているよ。」などと分類しながら、共通していることはなにか考えていった。そこからクリップは「ものをはさむことが必要だ」ということに気づき、はさむ仕組みについて調べた。その結果、バネを使っているもの、金属をまげてその間にはさむもの、切りこみを入れてあるもの、などを見つけた。「それから大きさもいろいろあるよ。」ということにも気づき、「ものをはさむという目的のために、作者が形や大きさ、材料を工夫してつくってある」ということに気づいた。クリップのすばらしいところや作者の作品にこめた思いを感じ取っていた(資料4)。

資料3 クリップを分類する様子



資料4 Aの感想

私はクリップを色々見て、この形は、金属でできているもの、プラスチックでできているもの、バネがあるもの、面白い形をしているもの、などを見つけた。それから大きさもいろいろあるよ。ということにも気づき、ものをはさむという目的のために、作者が形や大きさ、材料を工夫してつくってあるということに気づいた。クリップのすばらしいところや作者の作品にこめた思いを感じ取っていた。

Bは、班での話合いで「握りやすい形をしているよ。」「毛の部分の色が違うよ。」など意欲的に発言していた。また、分解してみるとどんな形かなと疑問に思い、実際にやってみた。「先生、たわしってこんなに細長かったんだよ。」と発見し、同じ班の子たちも感心して見ていた。「なんで、細長い形を丸くしているのかな。」と疑問をもち、分解したものをまたもとに戻したり、また分解したりを繰り返しながら、手に握った感触を何回も確かめていた。その後「流しを掃除している時にとってもこの形は持ちやすいね。」ということに気づき、資料5にあるように、作者の思いに気づいていった。

資料5 Bの感想

使う人のために、握りやすい形にしているの、考えてつくったと思いました。

「暮らしの中の作品」は子どもたちにとって、身近にあるにもかかわらず、あまり注目されることのなかったものである。作者の表現意図や作品の特徴を、色、形、素材、機能性などの造形要素を糸口に追究し、新たな発見が繰り返されていくうちに関心が高まっていった。「なぜ、こんな形をしているの」といった子どもたちの「なぜ？」を追究していくうちに、自分なりに作品を解釈し、普段何気なく使っているものでも、作者が思いをこめてつくったものであるということに気づき、見方や感じ方を深めるために有効であった。

### 研究のまとめと今後の課題

デザインされた身近にある造形作品を調べることにより、「暮らしの中の作品」の多様な面白さに気づき、関心をもつことができた。

作者の表現意図や特徴を追究していくことにより、普段何気なく使っているものでも作者が思いをこめてつくったものであるということに気づき、自分なりに作品を解釈することによって、見方・感じ方を深め、作品鑑賞を楽しむことができた。

調べる対象が広がりすぎて、各班が個別に活動する場面が多かった。中間発表会などの交流活動の場をつくり、発見や驚きを共有しながら意見交換ができる場をつくる工夫をしたい。

